

様式第二号の十三（第八条の十七の二関係）

（第1面）

特別管理産業廃棄物処理計画書	
令和6年6月27日	
大阪市長 殿	
提出者	
住所 大阪市此花区西島5丁目11番117号	
氏名 株式会社 大阪鉛錫精錬所	
代表取締役 廣末 幸子	
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)	
電話番号 06-6467-6000	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	株式会社 大阪鉛錫精錬所 西島事業所
事業場の所在地	大阪市此花区西島5丁目11番117号
計画期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	23:非鉄金属製造業
②事業の規模	製造品出荷額: 8.995百万円
③従業員数	73人
④特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙の通り

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図)			
特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状	【前年度（ 5 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	7423: 鉱さい	
	排 出 量	1348.7 t	t
	(これまでに実施した取組) スラグは、鉛化合物を還元精錬する工程で添加した鉄が主成分であり、鉄(造鍍材＝造スラグ材)の添加量を現行以上に減らすと、スラグの粘性が悪化し、スラグの還元炉内からの排出不良となり、炉況が悪化し、生産効率が低下する。		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	7423: 鉱さい	
	排 出 量	1500 t	t
	(今後実施する予定の取組) スラグは、鉛化合物を還元精錬する工程で添加した鉄が主成分であり、鉄(造鍍材＝造スラグ材)の添加量を現行以上にへらすと、スラグの粘性が悪化し、スラグの還元炉内からの排出不良となり、炉況が悪化し、生産効率が低下するため、発生抑制は困難な状態である。 粘性が悪化しない(＝スラグ流動性が維持される)状況を確認しながら、鉄添加量の減量化(＝スラグ発生量の低減)を実験中。(現状維持)		
特別管理産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 均一な熔融スラグであるため、選別は不可能な状態にある。再生利用による原料化として社内再利用は難しいと考えられるが、一部、再投入が可能かテスト中。また処理委託先にてリサイクル炉によるケーソン(充填材)原料等として再利用。		
②計画	(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 現状維持		

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 5 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) 特にありません		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組) 特にありません		

自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ 5 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) 特にありません		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組) 特にありません		

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（ 5 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	7423: 鉱さい	
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) 特にありません		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組) 特にありません		
特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（ 5 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	7423: 鉱さい 鉱さい	
	全 処 理 委 託 量	1348.7 t	t
	優良認定処理業者 への処理委託量	1348.7 t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者 への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者 への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
	最終処分先にて、ケーソン(充填材)原料等として再利用。 不定期ではあるが、現地確認を行い適正処理の状況を確認している。		

②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	7423: 鉱さい	
	全 処 理 委 託 量	1500 t	t
	優良認定処理業者 への処理委託量	1500 t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者 への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者 への処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
	現在の所は、現状維持		
	電子情報処理組織の使用 に関する事項	【前年度（ 年度）実績】	
特別管理産業廃棄物 排 出 量 (ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)		t	
(今後実施する予定の取組等)			
※事務処理欄			

(第6面)

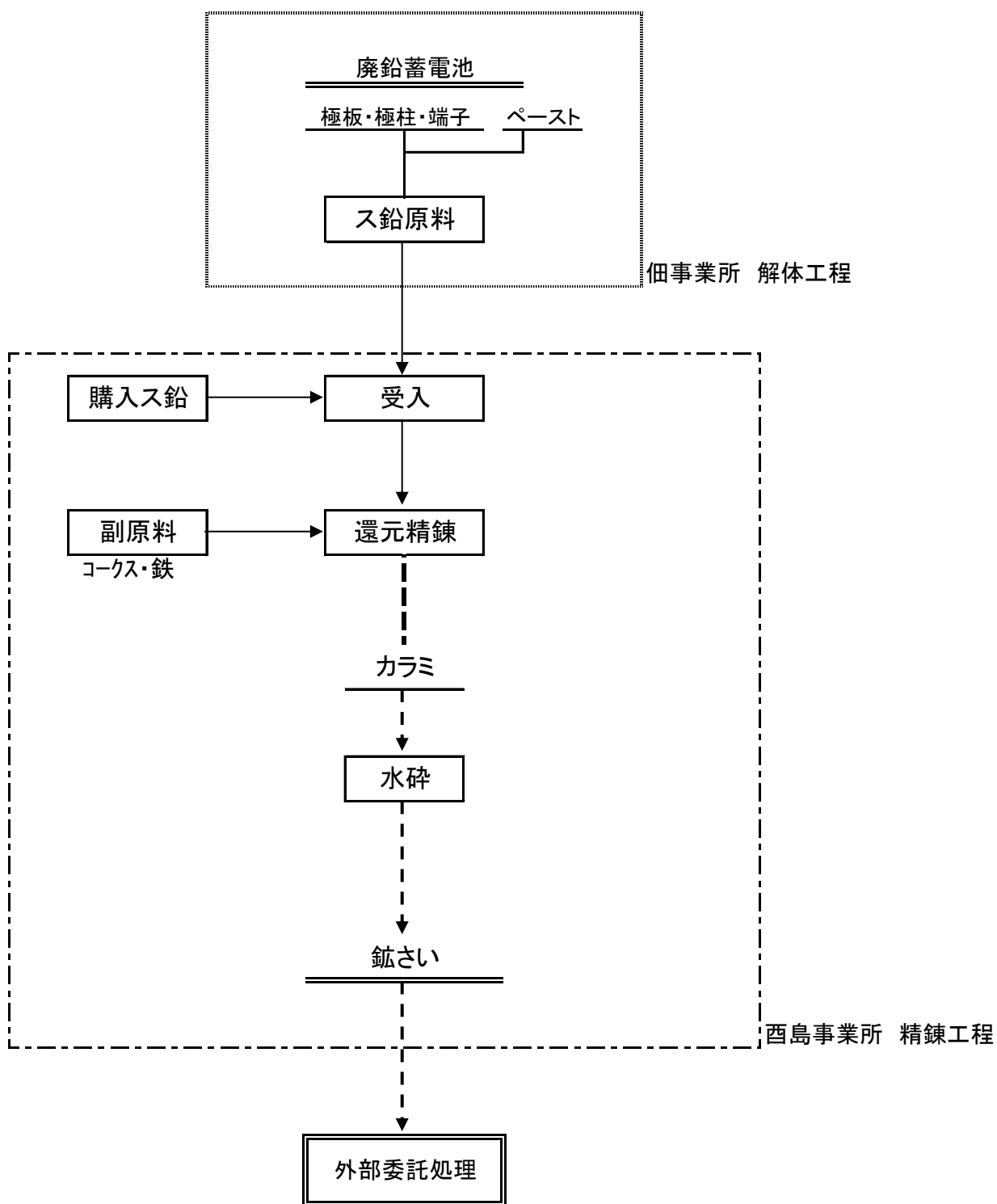
備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。

「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
 - 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
 - 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
 - 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量（ポリ塩化ビフェニル廃棄物(令第2条第4項第5号イからハまでに掲げるものをいう。)を除く。)を記入すること。その量が50トン以上の者にあつては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等（情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当するときは、その旨及び理由を含む。）について記入すること。
 - 8 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
 - 9 ※欄は記入しないこと。

(株)大阪鉛錫精錬所

特別管理産業廃棄物発生工程フロー



〔各部署の役割〕

部 署	役 割
A 統括マネージャー	・産業廃棄物の発生から処分に至るまでの統括的管理 ・産業廃棄物の適正管理等に関する社内啓発 ・各部署間の調整及び指示 ・廃棄物の資源化・減量化及び適正管理の検討 ・産業廃棄物処理計画の策定及びその実施
B 営業リサイクル推進G	・産業廃棄物の帳簿等を作成し、発生量、排出量を把握管理 ・処理業者委託の委託契約、委託量、委託伝票（マニフェスト）等の管理 ・保管場所（事業場内・外）の定期的査察 ・上記内容をA に報告
C 総務・経理G	・行政に対する報告等 ・産業廃棄物の適正処理費用の算出 ・委託料金の支払方法による業者管理 ・上記内容をA に報告
D 環境設備G	・行政に対する報告等 ・産業廃棄物実施報告書の作成 ・産業廃棄物処理計画の作成 ・保管場所（事業場内・外）の定期的査察 ・上記内容をA に報告
E 製造G	・現場施設の維持管理・点検等 ・保管施設の維持管理・点検等 ・上記内容をA に報告
F 技術G 品質保証G	・産業廃棄物の発生工程及び性状等のチェック等 ・産業廃棄物の分析及び環境事象の分析、測定等 ・製造工程の研究開発 ・産業廃棄物減量化手法の調査研究 ・上記内容をA に報告